

第8回びわこ東海道景観協議会 議事要旨

■日時：

令和3年10月29日（金）14時から16時まで

■場所：

大津市立平野市民センター

■出席委員：

藤本委員（会長）、壽崎委員、宮本委員、武田委員、古川委員、宇野委員、谷委員、木村委員、村上委員、和田委員、二反田委員、山田委員、増田委員、一浦委員

■欠席委員：

黒澤委員（オブザーバー）

■事務局：

大津市都市計画課、草津市都市計画課

■傍聴者：

なし

1. 開会

藤本会長挨拶

2. 委員及び事務局紹介

新たな顔ぶれとなって最初の会議のため、委員及び事務局紹介。

3. 傍聴者の確認について

びわこ東海道景観協議会は、原則公開とされており、傍聴者の有無について確認。今回、傍聴者はなし。

4. 議事概要

主な意見及び質疑は以下のとおり。

議事（１）びわこ東海道景観基本計画策定後の流れについて

<事務局>

今年度及び来年度以降のスケジュールについて説明。

【各委員】

質疑等なし。

議事（２）屋外広告物の統一した設置ルールの検討について

<事務局>

びわこ東海道景観基本計画の連携項目のひとつ、「屋外広告物による景観形成について」のなかの方針１「屋外広告物の新たなルールによる魅力ある沿道景観の保全」に基づき、今後、新たなルールを検討していきます。ルールを検討していくにあたり、まずは、どういふ看板が良い看板と思うか委員の皆様伺いたしたいと思います。

今回は、にぎわいの路線である県道１８号線と、風情ある東海道沿道と、分けて考えていただきたいと思います。それでは、検討材料として、それぞれの動画、PPT スライドを視聴いただいたあと、良いと思う看板とその理由について、ご意見をお聞かせいただければと思いますので、よろしくお願いします。

《各ドライブレコーダー動画・PPT スライド視聴後、各委員の意見聴取》

※各委員の意見については別紙のとおり

【会長】

ありがとうございました。それでは、各委員からいただいたご意見を、今後、事務局で取りまとめていただけたらと思います。事務局から何か説明はございますか。

<事務局>

皆様、様々なご意見いただきましてありがとうございます。

いただいたご意見を参考にしながら、事務局で方向性をまとめていきたいと思っております。

また、本日たくさんご意見をいただきましたが、今回の会議だけではなく、この会議が終わった後も、随時、皆様からご意見を頂戴したいと思っております。後日、意見募集の用紙をメールでお送りさせていただきますので、ご協力よろしくお願いします。

【会長】

他にご意見、ご質問はございませんか。なければ、本日の議事は以上となります。進行を

事務局へお返しします。

<事務局>

ありがとうございました。

次回の協議会については、来年2月頃を予定しております。

日程が決まり次第、ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、今後は冒頭でご説明しましたとおり、景観形成の基本方針となる景観計画の見直しを両市連携して進めて参ります。

景観形成の基準など、計画改定のポイントとなるものにつきましても、この協議会にてご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第8回びわこ東海道景観協議会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

第 8 回びわこ東海道景観協議会 委員意見 概要

〔 県道 18 号線 〕

委員名	
A	<p>・動画と静止画とでは、同じ看板でも印象が違う。車を運転していると看板があまり気にならない。車からは見えていないということかもしれない。そのような看板を設置することには、それほど意味が無いのでは。</p> <p>・鮮やか過ぎる色、大きなもの、高さがあるものは圧迫感がある。</p> <p>・交差点などにある非自家用の野立看板は、たくさん並んでも情報が読み取れない。必要な方に必要な情報が伝わるように、枚数や表示内容の整理がいるだろう。交差点にお店の看板がたくさん設置されていると、道路標識なども見えづらく安全面でも整理する必要があるのでは。</p> <p>・Googleやナビなどを利用することも多く、看板の役割も変化している。昔のように看板にたくさんの情報はいらなくなっていると思う。</p>
B	<p>・「●●」壁面に店名を表示し、表の野立は小さく、低い。赤やオレンジの強いものは、この幹線道路には似合わないのでは。店の壁面を有効活用し、路上のサインは大きさや高さを控えた方がよい。</p>
C	<p>・景観を良くするには、強制力のある規制が有効だろう。ただ、商売をされている方の思いもわかる。エリア分けをした方がよい。湖岸や東海道は厳しく規制した中で景観を守る、商業地は緩やかに。区分けをした中で、それぞれの思いが成り立つように。</p> <p>・高さや色合い。湖岸の美しい自然景観をきちっと守り、東海道の本来の姿も守っていく。全てを守ることは難しいので、重点的に守るエリアを決めた方が現実的。</p>
D	<p>・田んぼや背景の山並みなど、自然の色は四季折々変化していく。どちらかといえば、淡い色で心安らぐ。看板の色に原色が使われてしまうと、美しい周辺の自然の色味に目が行かず、看板の原色に負けてしまう。</p> <p>・「●●」大きいにも関わらず、それほど主張もせず、見ようとする人には見えるという周辺とのバランスがとてもよい。</p>
E	<p>・「●●」とてもすっきりとしていて良い印象を受けた。最近コンビニの看板が高さを抑えていて良い。高さを 8m くらいで統一すると沿道がきれいになるのでは。</p> <p>・景観を考えるなら、看板だけでなく緑や電線・電柱など、総合的に考える必要があるだろう。</p>
F	<p>・「●●」の建設当時、屋外広告物についてはかなり議論した記憶がある。壁面の面積に対して、広告物の面積を小さくするようお願いし、できるところは切り文字にもらった。</p> <p>・「●●」屋外広告物の何を良いものとするのかは難しい。ただ、店舗の建物と野立の高さが見合っている。マークそのもので広告の役割も満たしている。建物と高さや色が</p>

	調和していると良い印象を受ける。
G	<p>・「●●」改めて良い印象を受けた。その他商業建築は、壁が主役なのに対し、この店舗は屋根が主役。これだけで十分目を引く。その横によく見ないとわからないほどのつつましい野立。自分たちの店の認知度を信じているからこそ。</p> <p>・「●●」野立が案外小さい。大きくなくてもきっちり目立っている。</p>
H	<p>・これほど大きな看板が本当に必要なか疑問を感じる。街路樹があるせいで、それでも目立つようにするには仕方が無いのかもしれないが…。それにしても、一つの店舗に屋上、壁面、野立広告物…と表示する必要があるのか。数や面積に対して、もう少し規制してもよいのでは。</p>
I	<p>・「●●」看板はやはりデザインが重要。看板自体のデザインが優れていると同時に、建物との調和。建物と高さが揃っているなど、店舗全体のデザインが良いと目を引く。</p> <p>・「●●」街路樹や電線があっても目立たせたいという大きさと高さ。作り方や素材もコストを抑えているため野暮ったく感じる。</p> <p>・優れた看板は、看板の中にも企業のコーポレートアイデンティティを大切に表現している。大企業はロゴも一般的に普及しているため、多くを表示せずシンプルですっきり。色も単色が多い(入れてももう一色程度)。</p> <p>・個人商店や非自家用野立などは、限られた中に目いっぱい表示しようとしている。文字、写真、地図…。このような看板が一箇所に集まると、情報が欲しくても読み取れないし、興味がない人にとっては目障りな色板にしか見えない。一箇所に一枚ならまだ許せるのかもしれないが、案内・誘導だからこそ設置を許されているにも関わらず、本来の定義を逸脱して、ただの広告となっている。これらを上手く規制していくことが、景観の改善につながるのでは。</p> <p>・大企業ほど、コーポレートカラーの表示面積を抑えるなど配慮してもらいたい。そこまで主張しなくても、このような企業は十分認知度も高い。</p> <p>・屋上広告物は空を切り取っている分、配慮が必要だろう。色味を抑えたり、反転させたりするなど。</p>
J	<p>・大きすぎるもの、高すぎるものは圧迫感を受ける。色調のけばけばしさや、ごちゃごちゃと不揃いのももの不快に感じる。また、デザインそのもののレベルの低いものや古臭いものも嫌だと思う。</p> <p>・色はグリーン系が良く見えるし、幹線道路や東海道沿いには合っている。赤やオレンジ系でも周りの景観と調和していればよいと思うが。</p>
K	<p>・良い、悪いは個人の主観。特に違和感を覚えない。派手な屋上看板などは、普段生活を送るうえで、目的地までの目印にもなって良い。</p> <p>・車では違和感がないものも、徒歩や自転車になると見え方や感じ方も違う。</p>
L	<p>・「●●」この店舗の屋上広告はデザインも凝っている上に、建物のブルーのラインとも合っていて良い印象を受ける。同じ屋上広告でも建物と調和していないものには違和</p>

	<p>感がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非自家用野立看板の集合体も、来訪者にとっては必要なものであることはわかる。ただ、枠を設けるなど何かルールが必要ではないか。 ・全国展開しているようなコンビニや飲食店の看板のデザインは、よく考えられていると思うし、見かけると安心する。大きさや高さを見直すことで周辺との調和が取れるのでは。 ・「●●」の店舗は野立の看板など無く、すっきりしている。建物に表示されているだけでも十分目を引く。
M	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物を考えるとき、“まちなみとの調和”というところがポイントだろうと思う。“まちなみ”をどう見るのかによって変わってくる。また、屋外広告物はまちの活力にもなり得るため、まちなみをもう少し詳細に分けることで、一定のルール作りができないか。 ・緑が多いところにぎわいを出していきたいところ。一本の路線で見えるが、もう少しポイントに分けて議論していくと良いルール作りができるのではと思う。

会長まとめ

- 調和・・・店舗としての調和。店舗の建物自体にデザイン性があれば、看板はそれほど必要ないのかもしれない。店舗内に屋外広告物がいくつあっても調和が取れていれば良く見えたり、ポールだけが突出するのではなく建物の高さと揃っていたり・・・。一つの店舗としての調和という考え方がある。
- 色・・・単色づかい、原色のコントロールなど、色の検討は必要だろう。
- エリア・・・一本の県道ではあるが、田園エリアや屋外が集中しているエリアなど、エリアを分けて検討するという考えもあるだろう。
- 建物と一体になっている屋外広告物の方が好感度の高い印象を受ける。
- 質の高いデザイン
 - ・・・ここまでルール化できたら尚良い。これをするにはチェック機能、アドバイザー機能が必要となる。広告を出す事業者は、案外デザイン等について考えておられないケースが多い。事業者側にしっかりと考えてもらうには、この地域がどのような地域なのかをこちらからしっかりと示していくことで、随分変わってくるだろう。
 - 見慣れてしまって気にならないという意見もあるかもしれない。しかし、来訪者がこの地域をどのように感じるか。屋外広告物はこの地域の印象を大きく左右する。景観に配慮した質の高いサインが、地域の質を高めることになる。

【 東 海 道 】

委員名	
A	<p>・大津と草津の東海道はひと通り歩いたが、良い写真を撮りたくても屋外広告物が写りこんでしまうので難しい。</p> <p>・唐橋周辺は、今のように町家が残っているうちはいいが、どんどん東海道とはかけ離れた建物に変わっていくと悲しいと思う。野路のあたりも、今は気持ちよく歩けるが、個人のお家であるため、塀を変えられるだけでも景観ががらりと変わってしまう。観光ルートとして残していくことはとても難しい。</p> <p>・東海道の屋外広告物は、高さも大きさもそれほど必要ないが、建物との調和が大切だろう。</p>
B	<p>・東海道は観光的にいうと誘客に効果的なブランド。大津でいうと逢坂山から膳所くらいまでを歩くコースが人気。ただ、その先の人気がない。石山商店街がもう少し東海道らしかったら、石山駅から瀬田の唐橋を通過して石山寺・・・と、とても良い観光ルートとなる。地元の者からすれば、石山商店街は見慣れているのかもしれないが、観光客を呼ぶという視点では少し残念な景観。</p> <p>・重点エリアを決めて景観誘導していくということも良いが、東海道としての景観がすっかり失われているエリアでも、観光を考えたときには重要なエリアもある。重点エリア以外には力を入れないのではなく、失われた景観の中にも、東海道を感じることでできる何か景観を創り出せないか。</p>
C	<p>・東海道はぜひ風情を守っていききたい。ただ、ルールを設けるにしてもあまりにも長すぎる。より重点的に規制を行うエリアを分けた方がよいのでは。</p> <p>・できれば屋外広告物だけでなく、建物の外観も含め全体的に景観誘導できたらと思う。</p>
D	<p>・屋外広告物を検討するのに、道の規模を念頭におく必要があるかなと。国道は他府県からの車も多いだろうから、ある程度看板は必要だろうと思う。しかし、地元のものを利用することの多い、県道や東海道では、それほど看板は必要ないのかもしれない。</p> <p>・「●●」一見きつい赤色ではあるが、額縁のような形態にすることで、周辺のまちなみとも違和感なく馴染んでいる。また、東海道に対して平行に取り付けられている。そうすることでうるさく感じない。もし垂直に立っていたとしたら、遠くからずっと視界に入ってくるため、たとえ淡い色味であつてもうるさく感じるのかもしれない。</p> <p>・もし重点エリアを設定して規制・誘導するとしたら、その代わりそのエリアでは無電柱化を進めるなどの施策があつても良いと思う。</p>
E	<p>・東海道はまだまだ写真を撮りたくなるような景観が残っている。エリアを分けて、より重</p>

	<p>点的に規制を行うポイントを設けた方がよい。</p> <p>・唐橋周辺の非自家用の野立はとても残念。特に東側の案内看板は、全て同じ方角を示しているものがずらりと並んでいる。ゴルフ場などにある看板のように、まとめて表示して揃えるなどのルールがあってもおもしろい。(現状形は揃ってはいるが、色やデザインがバラバラ)</p>
F	<p>・「●●」ふくろうのイラストと余白の取り方、大きさがちょうど良い。</p> <p>・「●●」木製の看板もさることながら、交差点に立つ広告塔も歩行者目線の高さになっていて好感が持てる。交差点という特性を活かしながら歩行者からも車からもしっかり認識できるよう考えられている。しかし、デザインはそれほど主張しすぎている。</p> <p>・「●●」のれんと店先の酒樽。一目で歴史ある酒屋さんであることがわかる。広告の在りようとしてとても素敵だなと思う。</p>
G	<p>・「●●」建物と看板と植栽とが一体となっていて、風景を作ろうとされている。病院としても信頼できるのではと思わせるような佇まい。</p> <p>・草津にある小さなパン屋さん。街道の資産である町家を利用して、お商売自体を更新している。このようなお店は、屋外広告物に頼らない、別の宣伝の仕方をされているのだろう。東海道のこういうお店が増えて、流行っていくと素敵だなと思う。</p> <p>・「●●」今はどういう状態なのか。この佇まいがとても良いものだという意識をお持ちだろうか。このような建物を残しつつ、お商売が更新されていくとよい。</p>
H	<p>・東海道をあえてエリアで分ける必要はないのでは。一貫した規制をかけても良いと思う。たとえ住宅街に規制がかかっても、派手な表札をつけるお家も無いだろうし、影響は少ないだろう。東海道統一案内看板も普及させて、東海道であることを意識づけする取り組みもしているし、区別する必要はないように思う。</p>
I	<p>・てこいれをして観光的な価値が増すような部分を重点エリアとするのがよい。いきなり全体に網をかけるのではなく、成功事例を作っていくことが大切。それを見て、その他のエリアも後に続いていこう。成功するには住民の協力が不可欠。そのためには行政の金銭的な援助も有効だろう。</p> <p>・東海道といえば、草津の本陣周辺や唐橋を思い浮かべるが、本陣周辺もマンションがいくつも建ってとても残念だし、唐橋周辺の屋外広告物も残念。東海道には似つかわしい色使いや看板の枚数、表示内容。</p> <p>・今回改めて矢倉のあたりの景観は良いなと思った。“魅力ある景観を保全する”ということ言えば、すでに壊れかけているエリアの景観を創造するより、今良い景観が残っているエリアを急いで保全する方が良いかなと。</p>
J	<p>・東海道は歴史景観であるが、ポイントでしか残っておらず、東海道としてのつながりがない。確かにレトロ感はあるが…。歴史景観としては奈良や京都に比べると劣ってしまう。歴史景観の保全という点ではすでに難しい。そこでこれからは、“新たな歴史景観をつくる”ということを目指すべきではないか。保全だけでなく、にぎわいのある新たな</p>

	歴史景観を創るという、一歩先を行った歴史景観を創って行く視点の中で、看板を検討する必要があるだろう。
K	<p>・普段京都に勤めているが、商店街の店が駐車場になって、最後にはマンションになるという京都の事例を見てきた。ここもそうならないか……。同じ高さの建物が並んでいてこそ東海道の景観。東海道らしい建物がないと、歩いていても楽しくない。</p> <p>・大正、明治あたりの看板建築は個人的に良いなと思う。昔の看板は建物と調和している。このような看板建築も保存していけたらと思う。</p>
L	<p>・石山商店街のあたりは、まちなぎわいということで、これで良いかなど。ただ、その他のエリアでは、木製の看板やのれんなど、東海道らしい温かみのある広告物の方が良い印象を受ける。</p> <p>・「●●」通常の色味を使わずに、周辺のまちなみに配慮して、かなり色味を抑えている。一方で、突如色味のきついブルーの看板などは違和感がある。</p>
M	<p>・この計画には、連携項目の2つ目に“東海道沿道のつながりある景観形成”というものがある。今回は屋外広告物ではあるが、このことも意識する必要があるだろう。</p> <p>・また、どの目線で広告を見るのかということが非常に大事。東海道は徒歩や自転車だろう。そのような目線で屋外広告物を考えていく必要があるだろう。</p> <p>・東海道といっても色々な景観がある。重点的にモデル地区を設けて、より東海道を意識した看板のあり方を検討していくということもポイントではあるなと思う。</p> <p>・国の方で推奨している“ウォーカブル”“歩きたくなるまち”というところにも力を入れていこうと思えば、そういった目線で屋外広告物を検討することで、新たな魅力あるまちなみが形成できるのでは。</p>

会長まとめ

- 東海道には東海道というブランドがあるので、案内ルート(観光ルート)として、ポイントの整理があるのかなと思う。
- 歴史を活かした新たな歴史景観を創るという視点
- 建物と植栽と看板……。看板自体の大きい、小さいよりは、建物との全体的な調和も大切。取り付け方の話も出ていた。そのあたりを検討してみてもよいのでは。
- スケールの、車ではなく徒歩や自転車くらいのスピードにあわせた整備。看板が小さくても、ちょっとした工夫が効いてくる。また、看板の素材感が活かされる。